

滋賀県小・中学校環境教育調査
報告書
(2016 年度)

滋賀大学環境総合研究センター
環境教育研究部門・市川研究室

【目 次】

調査の概要	1
学校調査の結果	2
教員調査の結果	12
付記	20
調査票	21
集計表	37

【調査概要】

1) 調査の目的

- 滋賀県公立小・中学校の環境教育の現状、及び教員の意識状況を把握する。
- 全国小・中学校環境教育調査（2014 年度）（市川 2015）と共通する設問について、滋賀県と全国の比較を行い、滋賀県の傾向を把握する。

2) 調査の対象と方法

- 調査対象は、滋賀県の全公立小・中学校（2015 年度。小学校 223 校、中学校 99 校（休校を除く））である。
- 調査方法は、学校長宛の郵送形式による質問紙調査である。学校調査は、校長、副校長（教頭）、または主任に回答を依頼し、教員調査は、担任学年にはこだわらないとした上で、学級担任を受け持っている教員のうち 4～6 人に回答を依頼した。
- 実施時期は、2015 年 12 月 22 日発送、2016 年 1 月 31 日締め切りである。

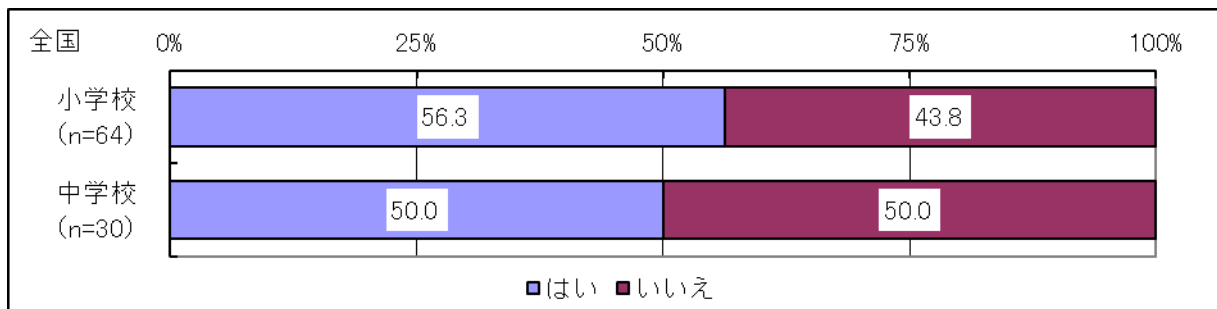
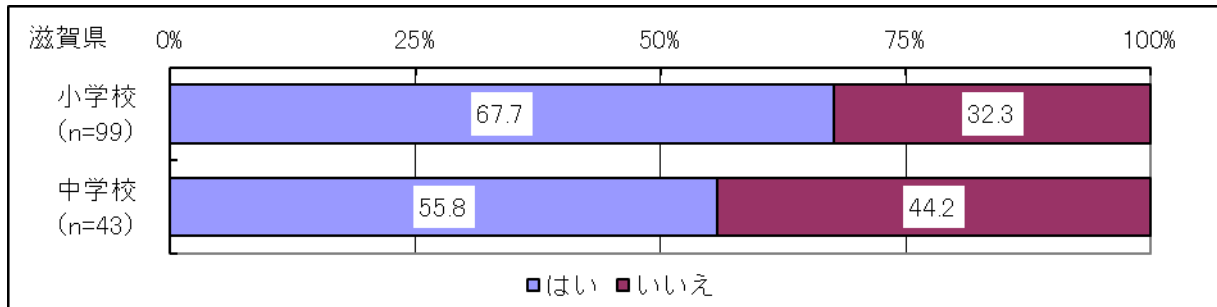
3) 回収状況

- 締め切り後に到着したものも含め、すべてを回答として取り扱うこととした。
- 小学校調査は、101校から回答があった（回収率45.3%）。
- 中学校調査は、43校から回答があった（回収率43.4%）。
- 小学校教員調査は、学校調査に回答のあった101校の480人に加え、教員調査のみ回答のあった1校の1人、計481人から回答があった。
- 中学校教員調査は、学校調査に回答のあった43校の173人に加え、教員調査のみ回答のあった1校の3人、計176人から回答があった。

文献：市川智史，2015，『全国小・中学校環境教育調査報告書（2014 年度調査）』，滋賀大学環境総合研究センター環境教育部門・市川研究室発行，(http://libdspace.biwako.shiga-u.ac.jp/dspace/bitstream/10441/14449/3/150818_zenkokuchosa.pdf)．

【学校調査結果】

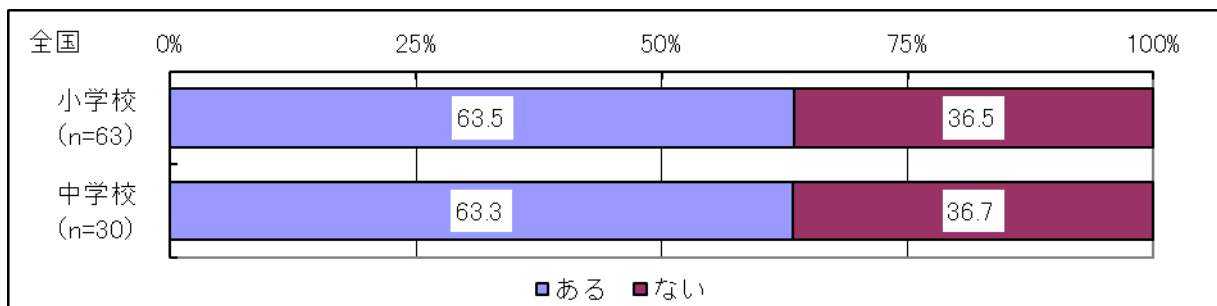
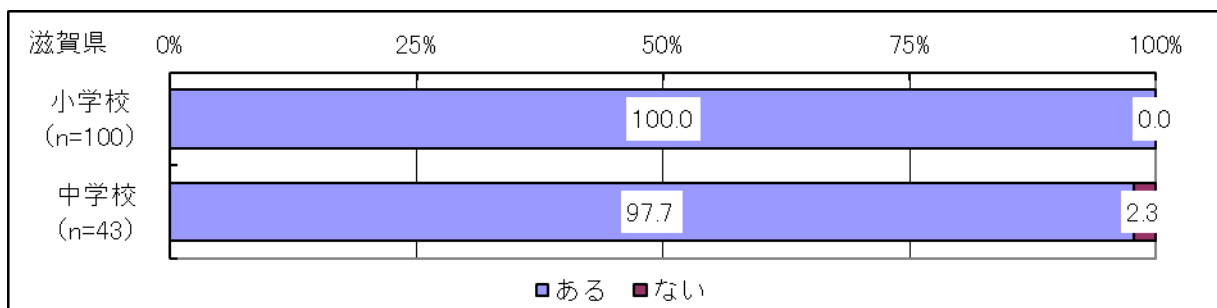
問１．貴校では、今年度の教育目標や重点目標などに、環境教育に関する内容が示されていますか。



○滋賀県の学校目標設定率は、小学校 67.7%、中学校 55.8%で、小学校の方が高い。

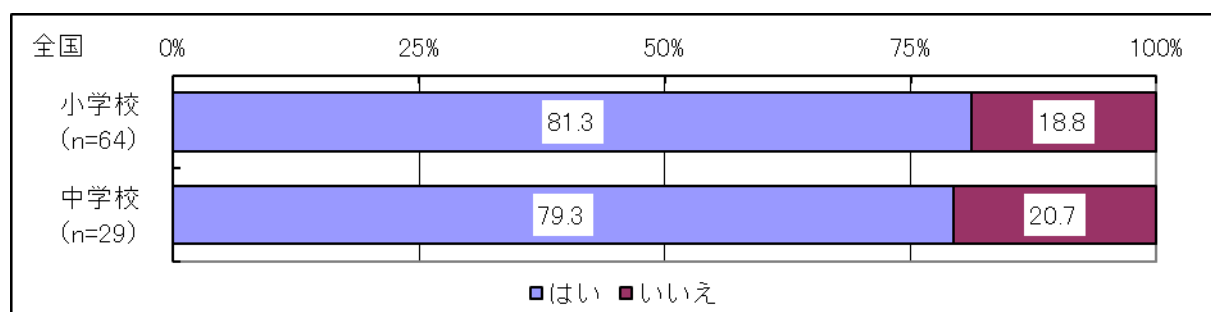
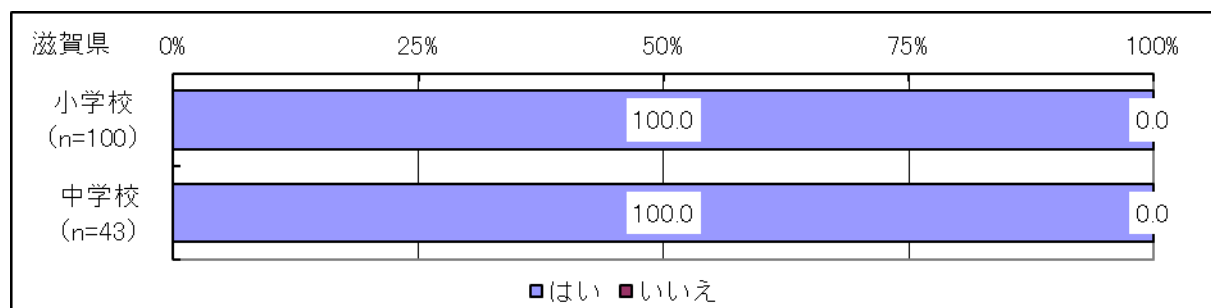
○全国との比較では、小・中学校ともに滋賀県の方が高いが、有意差は認められなかった（カイ二乗検定。有意確率5%。以下、同じ）。

問２．貴校には、環境教育の学校全体計画がありますか。



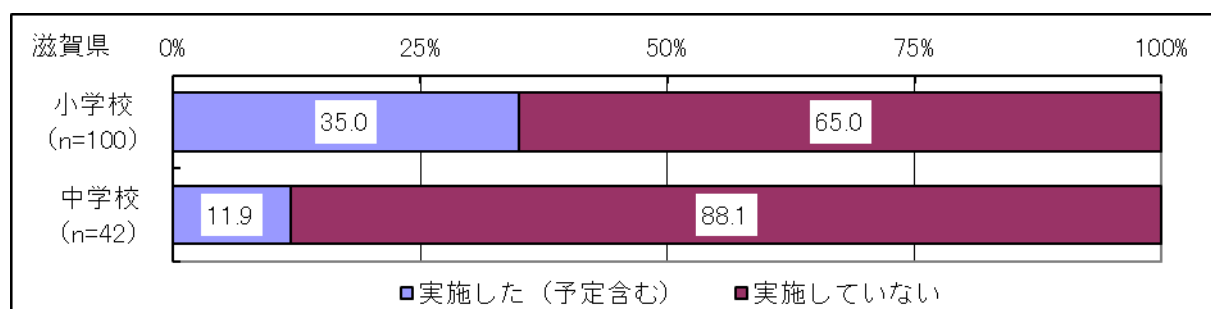
- 滋賀県では教育委員会から学校全体計画を作成するよう指導されているため、小・中学校ともに100%のはずであるが、中学校が100%になっていないのは回答ミスによるものと考えられる。
- 教育委員会の指導があるため、全国とは比較ができない。

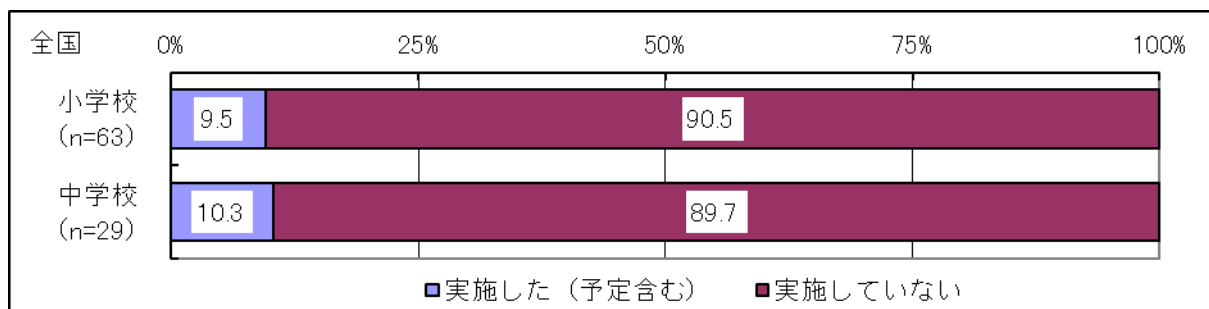
問3. 貴校では、校務分掌に環境教育担当を位置づけていますか。



- 学校全体計画と同様、滋賀県では環境教育担当主任を設置するよう指導されているため、小・中学校ともに100%である。
- 教育委員会の指導があるため、全国とは比較ができない。

問4. 貴校では、昨年度または今年度に、環境教育に関する校内研修を実施しましたか（実施予定も含む）。

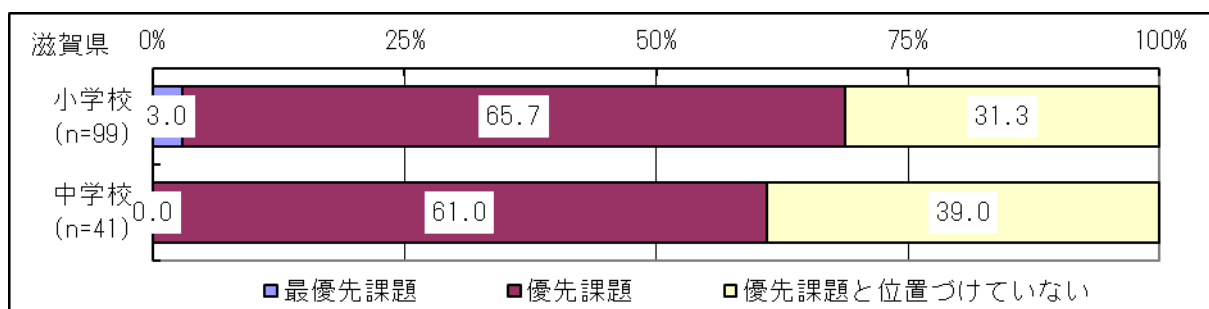




○滋賀県の校内研修実施率は、小学校 35.0%、中学校 11.9%で、小学校の方が高い。

○全国との比較では、小・中学校ともに滋賀県の方が高いが、小学校では有意差が認められ、中学校では認められなかった。校内研修実施率は、小学校において滋賀県の方が全国よりも有意に高いと言えるものの、さほど高い割合（35.0%）ではない。

問5．貴校では、現在の学校の方針として、環境教育をどのように位置付けておられますか。



○「環境教育は最優先課題と位置付けている」又は「最優先ではないが、優先課題と位置付けている」学校は、小学校 68.7%、中学校 61.0%で、小学校の方が高いが大きな差はない。

○「他の教育課題を優先しており、環境教育は優先課題と位置付けていない」学校が3～4割程度存在している。

問6．貴校では、環境教育のために、各学年で年間どのくらいの時間をあてていますか。括弧内に数字をご記入下さい。

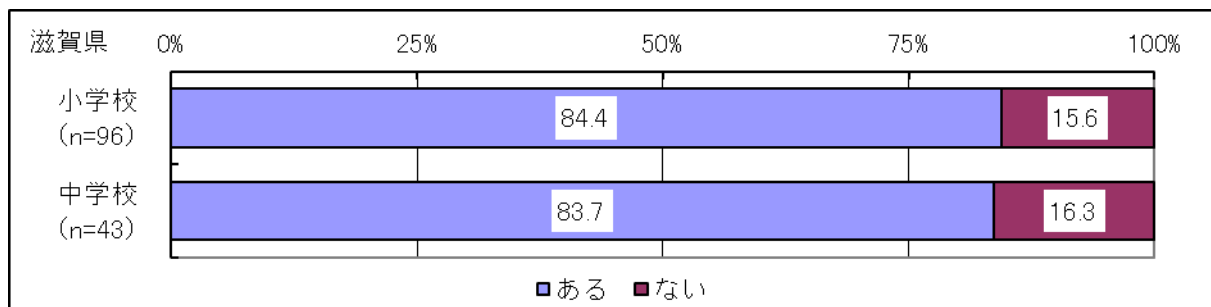
	平均時間数（時）	最高時間数（時）	最低時間数（時）	有効数（校）
小学校1年	12.1	70	0	82
2年	13.2	65	0	83
3年	14.3	70	0	83
4年	20.7	80	2	84
5年	24.4	120	2	85
6年	13.5	50	2	84
中学校1年	5.8	15	0	37
2年	4.3	10	0	37
3年	4.9	30	0	37

※：色敷、ゴシック太字は平均時間数の多い学年。

○年間平均時間数を見ると、小学校では 12～24 時間程度、中学校では 4～6 時間程度で、小学校の方が多い。

○小学校の学年別では第 4 学年が 20.7 時間、第 5 学年が 24.4 時間と多くなっている。このことは、小学校第 4 学年で森林環境学習「やまのこ」事業（以下、「やまのこ」と記す。）、第 5 学年でびわ湖フローティングスクール（以下、「うみのこ」と記す。）が行われていることと関連していると考えられる。

問 7. 貴校には、環境教育と位置づけて行っている全校活動・行事はありますか。



(問 7 で「1. ある」を選んだ方だけお答え下さい) その活動・行事の内容を簡単にご記入下さい。

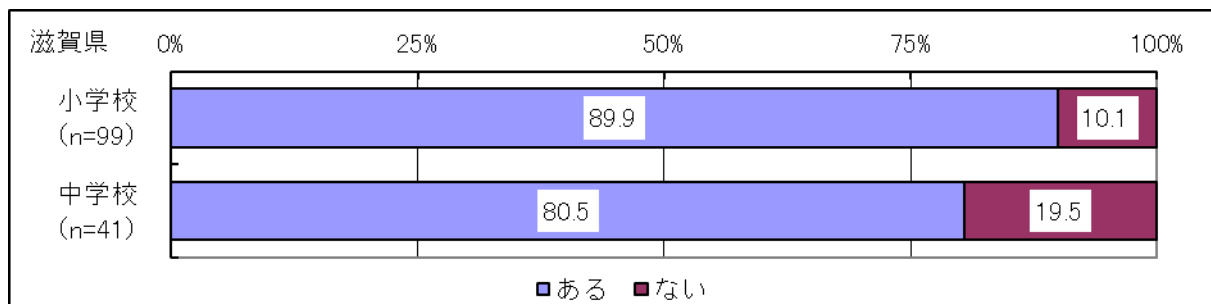
活動内容	小学校 (80 校)	中学校 (36 校)
美化・清掃活動	88.8	86.1
栽培活動	25.0	13.9
自然についての学習・観察・調査	11.3	5.6
自然体験活動	8.8	5.6
学年での活動	7.5	13.9
ビオトープ	6.3	0.0
資源回収活動	5.0	19.4
その他	3.8	8.3

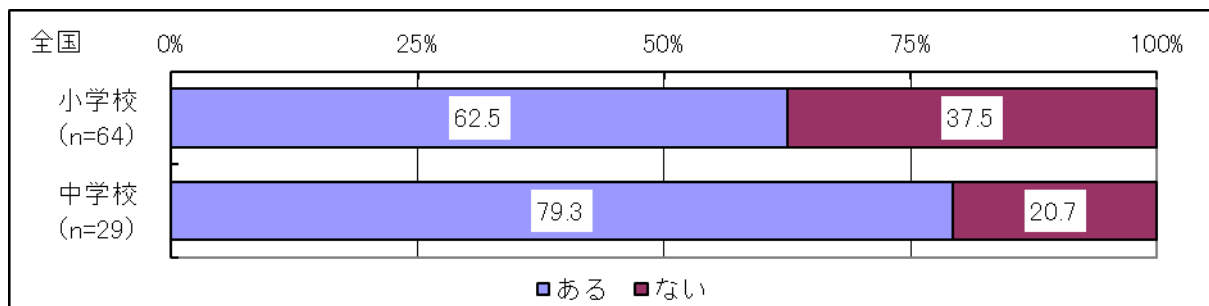
※：表中の数値は%。色敷、ゴシック太字は 50%以上の項目。小学校の割合の高い順。

○全校活動・行事での環境教育取組率は、小学校 84.4%、中学校 83.7%で、ともに 8 割強と高い。

○「ある」と回答した学校の活動・行事の内容を見ると、小・中学校ともに「美化・清掃活動」（クリーン作戦、環境美化の日、除草作業、など）が最も高く 9 割近くになっている。

問 8. 貴校には、児童会〔生徒会〕に環境委員会などの環境に関する組織はありますか。





(問8で「1. ある」を選んだ方だけお答え下さい) その委員会の名称と活動内容を簡単にご記入下さい。

活動内容	小学校 (86 校)	中学校 (33 校)
飼育・栽培	72.1	51.5
美化・清掃	68.6	90.9
資源回収	33.7	36.4
環境に関する啓発活動	26.7	6.1
福祉・人権に関する活動	11.6	6.1
ビオトープ	8.1	0.0
その他	4.7	3.0

※表中の数値は%。色敷、ゴシック太字は50%以上の項目。小学校の割合の高い順。

- 滋賀県の環境に関する委員会の設置率は、小学校 89.9%、中学校 80.5%で、ともに8割を超え、小学校では約9割と高い。
- 全国との比較では、小・中学校ともに滋賀県の方が高いが、小学校では有意差が認められ、中学校では認められなかった。委員会設置率は小学校において滋賀県の方が全国より有意に高いと言える。
- 「ある」と回答した学校の活動内容を見ると、小学校では「飼育・栽培」(栽培活動、花壇経営、魚の飼育活動、など)、「美化・清掃」(校内美化活動、清掃用具の点検、クリーン活動、など)が7割前後と高く、中学校では「美化・清掃」が約9割と高い。

問 9. 貴校の「総合的な学習の時間」として、特に重視しているテーマを、次の中から該当するものを3つ以内で選んで下さい。

	小学校		中学校	
	滋賀 (95 校)	全国 (56 校)	滋賀 (40 校)	全国 (26 校)
国際理解	9.5	28.6	12.5	15.4
情報	4.2	17.9	5.0	3.9
環境	69.5	50.0	25.0	19.2
福祉	63.2	48.2	45.0	42.3
健康	1.1	0.0	0.0	3.9
地域 (郷土)	71.6	71.4	52.5	50.0
伝統文化	11.6	10.7	7.5	19.2
人権	28.4	12.5	42.5	11.5
生き方	15.8	17.9	15.0	46.2
進路	1.1	3.6	65.0	50.0
その他	2.1	3.6	5.0	7.7

※：表中の数値は%。色敷、ゴシック太字は上位3項目。

○小学校では、滋賀県、全国ともに上位3項目は同じであり、順位も同じである。「環境」について見ると、滋賀県の方が全国より19.5ポイント高く69.5%となっている。

○中学校では、上位2項目は同じであり、順位も同じと見なし得る。「環境」について見ると、滋賀県の方が全国より5.8ポイント高く25.0%となっているものの大きな差ではない。

○「環境」の重視率は、滋賀県、全国ともに中学校より小学校の方が高い。

〔小学校〕

問 10. 貴校では、「やまのこ」、「うみのこ」の事前指導・事後指導として、どのような実践を行っていますか。行っている実践の内容を簡単にご記入ください。特に行っていない場合は、「特になし」とご記入下さい。

「やまのこ」事前指導	%
森林・森林のはたらきの学習	53.3
やまのこに関する事前説明・準備	21.7
水・川に関する学習	13.0
身近な自然に関する学習・調査	13.0
間伐・間伐材に関する学習	10.9
特になし	8.7
自然体験活動	6.5
やまのこ指導員による出前授業	6.5
林業に関する学習	4.3
自然の中で安全に活動するための学習	4.3
その他	3.3

※：有効数 92 校。

※：色敷、ゴシック太字は 50%以上の項目。

「やまのこ」事後指導	%
新聞づくり	57.1
報告・発表活動	33.0
自然に関する学習・調査	29.7
自然体験・工作	17.6
学習のまとめ	11.0
特になし	3.3
その他	2.2

※：有効数 91 校。

※：色敷、ゴシック太字は 50%以上の項目。

「うみのこ」事前指導	%
びわ湖に関する学習	68.1
水環境に関する学習・調査	39.6
うみのこに関する事前説明・準備	17.6
副読本『あおいびわ湖』	15.4
自然に関する学習・調査	7.7
特になし	5.5
新聞づくり	2.2
その他	1.1

※：有効数 91 校

※：色敷、ゴシック太字は 50%以上の項目。

「うみのこ」事後指導	%
新聞づくり	48.9
報告・発表活動	32.2
びわ湖に関する学習	28.9
学習のまとめ	21.1
水環境に関する学習・調査	17.8
特になし	4.4
その他	5.6

※：有効数 90 校

○「やまのこ」の事前指導では「森林・森林のはたらきの学習」（森林のはたらき、森と川のつながり、など）、事後指導では「新聞づくり」（新聞づくり、絵や文にまとめる、など）が 5～6 割と高くなっている。

○「うみのこ」の事前指導では「びわ湖に関する学習」（びわ湖の生き物、びわ湖環境学習、びわ湖について、など）が約 7 割と高くなっており、事後指導では「新聞づくり」が 5 割弱となっている。

〔中学校〕

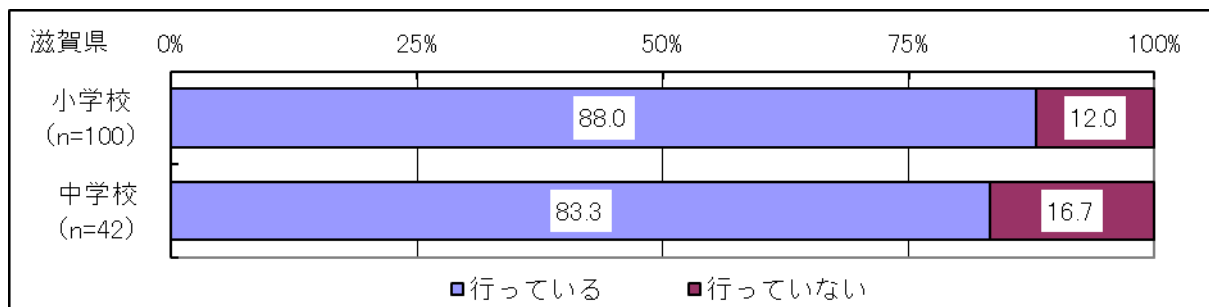
問 10. 貴校では、小学校で行われている「やまのこ」、「うみのこ」に関連づけた環境教育の実践を行っていますか。行っている実践の内容を簡単にご記入ください。特に行っていない場合は、「特になし」とご記入下さい。

「やまのこ」関連実践内容
八幡山フィールドワーク（登山）。職場体験での林業体験。
「ウッド・ジョブ体感事業」。1 年生を対象に地場産業である林業体験させるとともに、地域の豊かな自然と環境を再認識させる。
林業体験（2 年）。
中学 1 年で、葛川自然の家にて、2 泊 3 日の活動を行っている。山、川での自然体験学習を行っている。
3 年生の総合的な学習の時間の中で、里山での体験を通した学習を実施している。
「葛川自然の家」を活用した宿泊体験学習。

「うみのこ」関連実践内容
西の湖サイクリング。牧水泳場フィールドワーク。西の湖観察会（琵琶湖・淀川こども水質保全活動）。
「自然体験学習」。琵琶湖畔で水環境学習、ウォータースポーツ体験、ヨシ笛づくりを行う。

○上表はすべての回答をそのまま記載したものである。回答はごく少数で、中学校では「やまのこ」「うみのこ」に関連した環境教育はほとんど行われていないと考えられる。

問 11. 貴校では、「びわ湖の日（7月 1 日）」の取り組みにおいて、環境教育に関わる活動を行っていますか。



(問 11 で「1. 行っている」を選んだ方だけお答え下さい) その実践・活動の内容を簡単にご記入下さい。

活動内容	小学校 (84 校)	中学校 (33 校)
美化・清掃活動	90.5	84.8
児童・生徒の意識啓発	11.9	12.1
びわ湖・水に関する学習	7.1	12.1
びわ湖の日音声ストーリーCD	4.8	0.0
資源回収	1.2	9.1
その他	2.4	3.0

※：表中の数値は%。色敷、ゴシック太字は 50%以上の項目。小学校の割合の高い順。

- 「びわ湖の日」の環境教育取組率は、小学校 88.0%、中学校 83.3%で、ともに高い。
- 「行っている」と回答した学校の活動内容を見ると、小・中学校ともに「美化・清掃活動」が 8～9 割強と高い。

問 12. 今年度（平成 27 年度）、「総合的な学習の時間」・「特別活動」での環境に関する学習として貴校が実践された学習内容・テーマについて、以下の中から、該当するものをいくつでも選んで下さい（実践予定を含む。実践学年にはこだわりません）。

〔小学校〕

実践内容	%	実践内容	%
飼育・栽培活動	90.0	緑のカーテン	32.0
琵琶湖の生き物・固有種	85.0	酸性雨	26.0
琵琶湖の富栄養化・水の汚れ	79.0	省資源、省エネルギー	25.0
湖、川などでの自然体験活動	69.0	絶滅危惧種	22.0
ゴミ問題	67.0	地域の開発・まちづくり	22.0
校庭、森などでの自然体験活動	67.0	生態系から受ける恩恵	22.0
地域の美化・清掃活動	67.0	ラムサール条約	20.0
地域の自然の調査・観察	64.0	環境に関する滋賀県の条例	19.0
外来種	61.0	公害（鉱害）	18.0
リデュース、リユース、リサイクル	61.0	再生可能エネルギー	17.0
水質汚濁	55.0	大気汚染	15.0
地産地消、食育	54.0	緑化活動	15.0
環境に関する施設の見学	54.0	生物多様性	12.0
生活排水	52.0	砂漠化・黄砂	11.0
森林破壊や緑の減少	51.0	オゾン層（の破壊）	9.0
地球温暖化、二酸化炭素の排出	50.0	放射能・放射線	9.0
エコキャップ活動	49.0	原子力発電	8.0
古紙・空き缶などの資源回収活動	45.0	獣害	7.0
環境に配慮した生活	44.0	PM 2.5	6.0
災害・防災	39.0	海洋汚染	4.0
廃棄物の減量・分別	36.0	その他	2.0
地域の水質や大気の調査	32.0		

※：有効数 100 校。色敷、ゴシック太字は 50%以上の項目。

○小学校の「総合的な学習の時間」・「特別活動」での環境教育実践内容は、「飼育・栽培活動」（90.0%）が最も高く、次いで「琵琶湖の生き物・固有種」（85.0%）、「琵琶湖の富栄養化・水の汚れ」（79.0%）、「湖、川などでの自然体験活動」（69.0%）が高くなっている。琵琶湖や水環境に関わる実践が行われていると考えられる。

○50%以上の他の項目を見ると、自然体験や自然の調査・観察といった自然環境に関わる学習、美化・清掃、ゴミ問題、3R、生活排水、地産地消といった生活環境に関わる学習が行われていると考えられる。

〔中学校〕

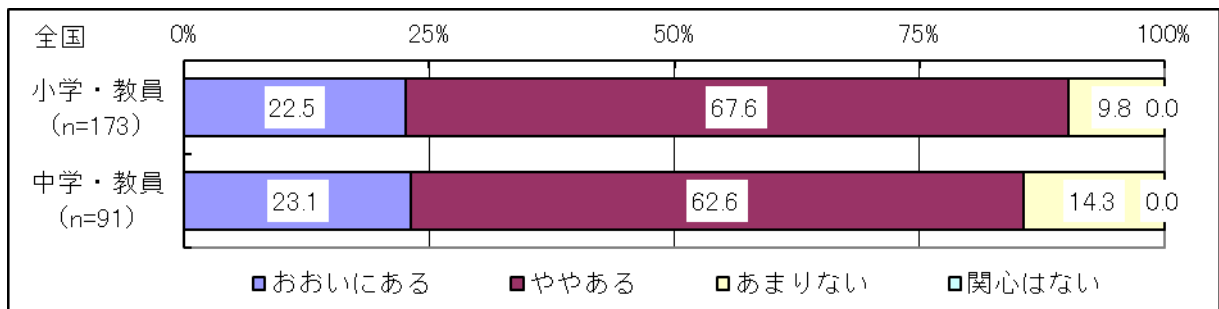
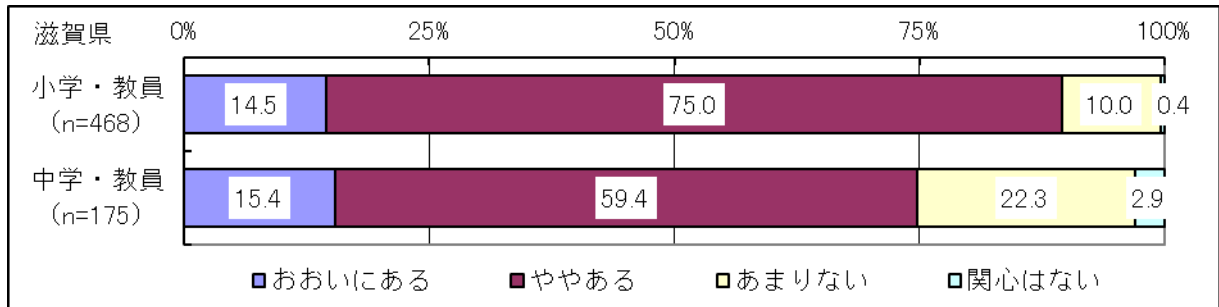
実践内容	%	実践内容	%
エコキャップ活動	60.5	廃棄物の減量・分別	9.3
地域の美化・清掃活動	55.8	校庭、森などでの自然体験活動	9.3
古紙・空き缶などの資源回収活動	55.8	放射能・放射線	7.0
ゴミ問題	30.2	地域の水質や大気の調査	7.0
琵琶湖の生き物・固有種	20.9	森林破壊や緑の減少	4.7
リデュース、リユース、リサイクル	20.9	公害（鉱害）	4.7
湖、川などでの自然体験活動	20.9	生物多様性	4.7
琵琶湖の富栄養化・水の汚れ	18.6	原子力発電	4.7
環境に配慮した生活	18.6	緑のカーテン	4.7
地域の自然の調査・観察	18.6	酸性雨	2.3
災害・防災	16.3	オゾン層（の破壊）	2.3
地域の開発・まちづくり	16.3	獣害	2.3
地産地消、食育	16.3	ラムサール条約	2.3
地球温暖化、二酸化炭素の排出	14.0	生態系から受ける恩恵	2.3
飼育・栽培活動	14.0	緑化活動	2.3
水質汚濁	11.6	砂漠化・黄砂	0.0
生活排水	11.6	PM 2.5	0.0
再生可能エネルギー	11.6	海洋汚染	0.0
省資源、省エネルギー	11.6	絶滅危惧種	0.0
環境に関する施設の見学	11.6	大気汚染	0.0
外来種	9.3	その他	0.0
環境に関する滋賀県の条例	9.3		

※：有効数 43 校。色敷、ゴシック太字は 50%以上の項目。

- 中学校の「総合的な学習の時間」・「特別活動」での環境教育実践内容は、「エコキャップ活動」（60.5%）が最も高く、次いで「地域の美化・清掃活動」（55.8%）、「古紙・空き缶などの資源回収活動」（55.8%）が高くなっている。小学校とは異なり、50%以上の項目はこれら 3 項目だけである。
- 小学校の上位である「琵琶湖の生き物・固有種」「琵琶湖の富栄養化・水の汚れ」「湖、川などでの自然体験活動」といった琵琶湖や水環境に関わる学習は 2 割程度と低くなっている。

【教員調査結果】

問1. あなたは、環境教育に関心がありますか。



- 滋賀県の教員の関心度は、「おおいに関心がある」割合は小・中学校でほぼ同じであるが、「やや関心がある」割合は小学校の方が高くなっており、小学校教員の方が関心のある層（「おおいにある」＋「ややある」）の割合（89.5%）が高い。
- 全国との比較では、「おおいに関心がある」割合は小・中学校ともに滋賀県の方が低くなっているものの、小学校では関心のある層（「おおいにある」＋「ややある」）の割合は大きな違いはなく、関心のある層と関心のない層の2群に分けた場合の有意差も認められなかった（2行2列）。
- 中学校では2群に分けた場合の有意差が認められ（2行2列）、関心のある層の割合は滋賀県の方が全国より有意に低いと言えるものの、さほど低い割合（74.8%）ではない。

問2.「学校における環境教育」と言われた時、その指導内容や取り扱う題材として思い浮かべることはどのようなことですか。まず思い浮かぶことがらについて、例えば、「水の汚れの学習」、「自然体験活動」のように、3つ以内でご記入下さい。

想起内容分類	小学校（465人）	中学校（164人）
自然体験活動・学習	39.1	30.5
水環境に関する学習	35.9	22.0
びわ湖に関する学習	31.8	30.5
ゴミに関する学習	21.3	14.6
うみのこ（フローティングスクール）	17.6	0.6
やまのこ	14.8	0.0
飼育・栽培活動	14.8	2.4
自然に関する学習・調査	13.8	15.2
リサイクル（3R）活動	12.7	15.9
森林に関する学習	12.3	3.0
美化・清掃活動	11.4	18.3
地域学習	9.7	10.4
環境問題に関する学習	9.2	12.8
資源・エネルギーに関する学習	7.7	11.0
地球温暖化	5.8	18.3
生活環境に関する学習	4.9	3.0
ビオトープ	4.3	0.6
大気汚染	4.3	11.6
たんぼのこ、田んぼの学習	3.4	0.0
食育に関する学習	1.3	2.4
防災・安全に関する学習	0.9	0.6
その他	3.7	7.3

※：表中の数値は％。色敷、ゴシック太字は30％以上の項目。小学校の割合の高い順。

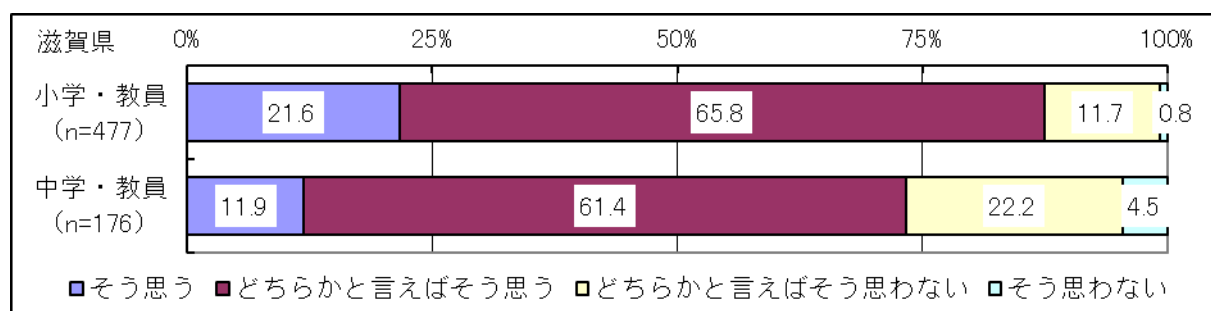
○分類の結果、小学校では「自然体験活動・学習」（自然体験活動、自然体験学習、自然に親しむ、など）（39.1％）が最も高く、次いで「水環境に関する学習」（水の汚れの学習、川の水質調べ、川の生き物調べ、など）（35.9％）、「びわ湖に関する学習」（びわ湖の水質、びわ湖の生物、びわ湖、ヨシ、びわ湖の学習、など）（31.8％）が高く、これら3項目は30％を超えている。

○中学校の上位は小学校と同じであるが、「水環境に関する学習」（22.0％）は30％に至っていない。

○「うみのこ」「やまのこ」や「飼育・栽培活動」「森林に関する学習」を想起する中学校教員はほとんどいない。逆に「地球温暖化」「大気汚染」は小・中学校でやや差があり、中学校教員の方が想起率が高い傾向が見られる。

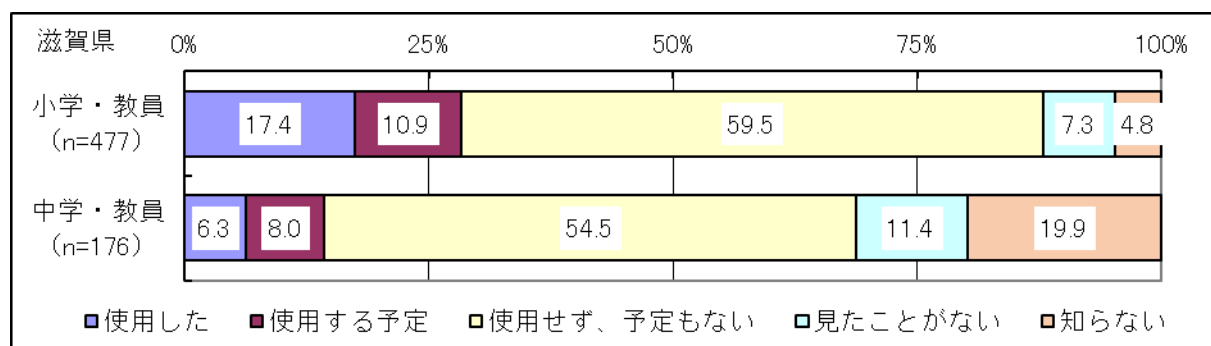
○小・中学校ともに50％以上の項目がなかったことから、教員が想起する指導内容や題材には多様性があると考えられる。

問3. あなたは、滋賀県が「環境教育先進県」だと思いますか。



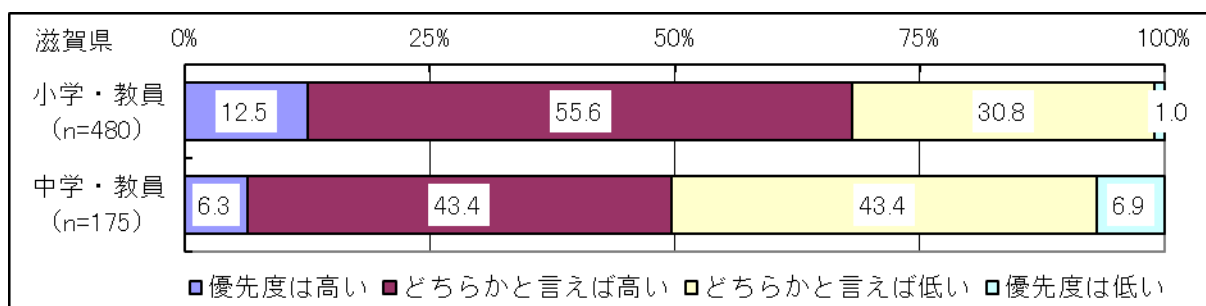
○「環境教育先進県」であるとの認識については、「そう思う」割合が小学校（21.6%）の方が高い。
○有意差が認められ（2行4列）、小学校教員の方が「環境教育先進県」ととらえる傾向があると言える。

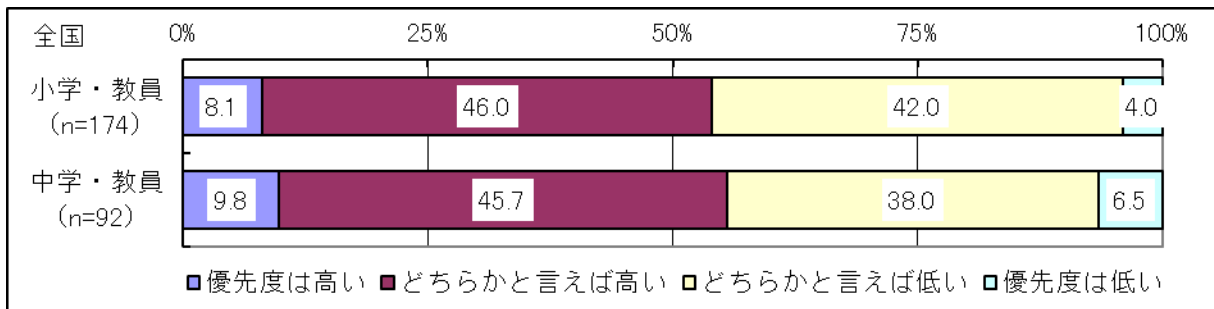
問4. あなたは、今年度（平成27年度）「あおいびわ湖」（副読本）を授業で使用しましたか。または、使用する予定がありますか。



○副読本の使用については有意差が認められ（2行5列）、「使用した」または「使用する予定である」教員の割合は小学校（28.3%）の方が高い。
○中学校では、「見たことがない」または「知らない」教員の割合が31.3%となっている。

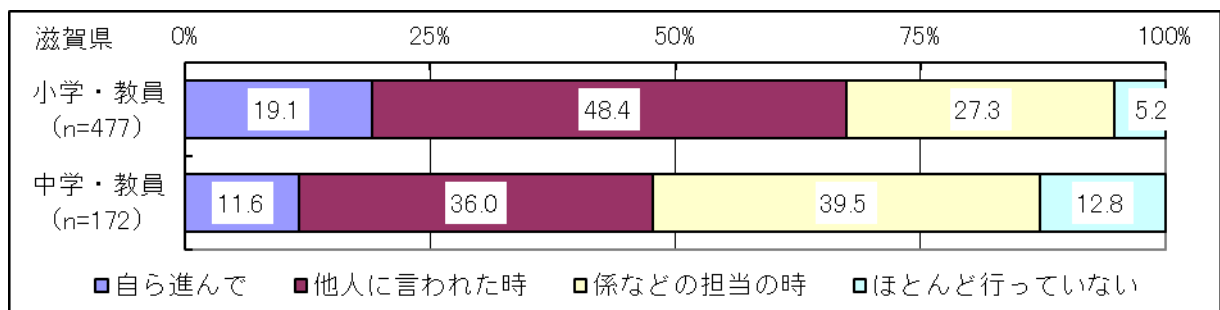
問5. あなたは、現在の教育課題として、環境教育の優先度はどの程度だと捉えていますか。





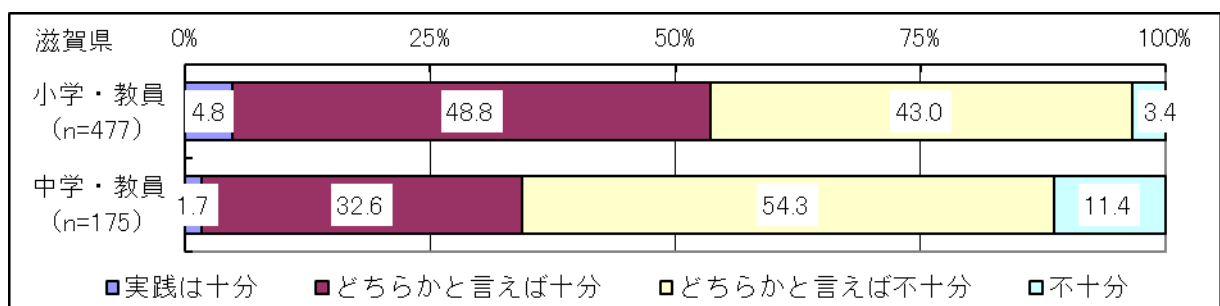
- 滋賀県の実践の優先度のとらえ方については有意差が認められ（2行4列）、小学校の方が「優先度は高い」又は「どちらかと言えば高い」ととらえる教員の割合（68.1%）が高い。
- 全国との比較では、小学校では有意差が認められたが、中学校では認められなかった。環境教育の優先度を高いととらえる教員の割合は、小学校において滋賀県の方が全国より有意に高いと言える。

問6. あなたは、自分の担任学級の児童〔生徒〕の環境に関する行動について、どのように捉えていますか。



- 小学校では「他の人に言われたときは行っている」が48.4%、「係などの担当の時は行っている」が27.3%となっているのに対し、中学校では、「係などの担当の時は行っている」が39.5%、「他の人に言われたときは行っている」が36.0%で、若干の違いが見られるものの、2つの選択肢を足し合わせると小・中学校の差はほとんどない（小学校75.7%、中学校75.5%）。
- 有意差が認められたことからすれば、小学校教員は「自ら進んで行っている」ととらえ、中学校教員は「ほとんど行っていない」ととらえる傾向があると言える。

問7. あなたは、現在の学校教育における環境教育の実践の現状について、どのように捉えていますか。



- 「実践は十分である」との回答は小・中学校であまり違いはないが、十分であると思う層（「実践は十分である」＋「どちらかと言えば十分である」）で見ると、小学校（53.6%）の方が高い。
- 有意差が認められ（2行4列）、環境教育の実践を十分であるのとらえる割合は、小学校教員の方が有意に高いと言える。

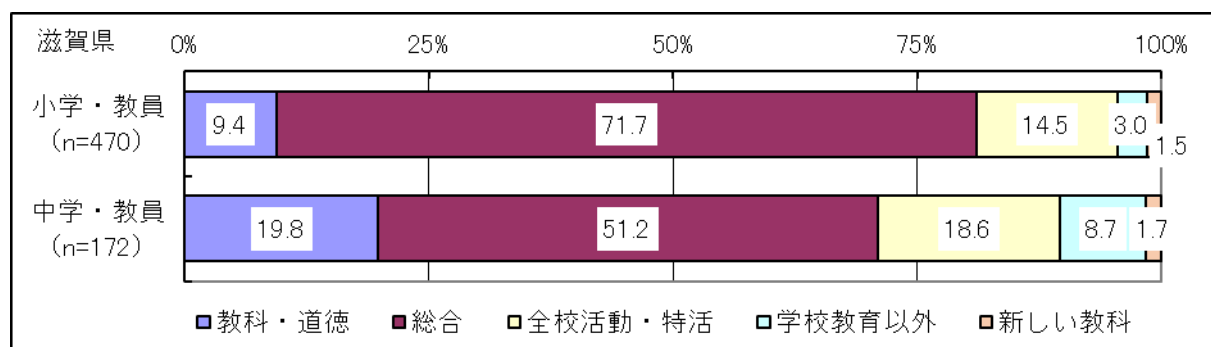
問8. あなたは、環境教育の実践における問題・課題についてどのようにお考えですか。次の中から、主要な問題・課題だと思うものを2つ以内で選んで下さい。

	小学校（470人）	中学校（174人）
教材・プログラムの不足	35.7	35.6
指導方法に関する資料・情報の不足	35.3	39.7
実践事例に関する資料・情報の不足	16.8	20.1
評価方法に関する資料・情報の不足	8.5	10.3
環境問題に関する資料・情報の不足	15.3	19.0
準備・実践時間の不足	54.9	48.3
その他	3.6	3.4

※：表中の数値は%。色敷、ゴシック太字は上位2項目。

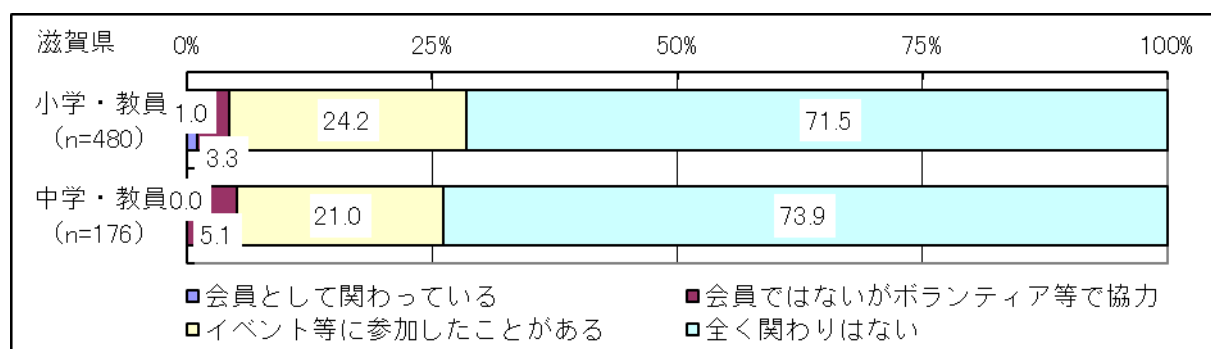
- 「準備・実践時間の不足」を挙げた教員が小学校 54.9%、中学校 48.3%で最も高く、次いで、小学校では「教材・プログラムの不足」（35.7%）、中学校では「指導方法に関する資料・情報の不足」（39.7%）が高くなっている。
- 30%以上の項目を見ると、小・中学校それぞれの第3位までが相当し、環境教育実践の主要な問題・課題は、「時間」、「教材・プログラム」、「指導方法の資料・情報」の不足であると考えられる。

問9. あなたは、今後の環境教育の進め方についてどのようにお考えですか。



- 「総合的な学習の時間」で実践する方がよい」との回答が小学校 71.7%、中学校 51.2%で、それぞれ最も高いが、その割合は小学校の方が高い。有意差が認められた（2行5列）ことからすれば、環境教育の進め方についての考え方には違いがあると言える。
- 中学校では「教科・道徳」で実践する方がよい（19.8%）が小学校より 10.4 ポイント高く、「全校活動・特別活動」で実践する方がよい、「学校教育以外の教育・学習の場」で実践する方がよい」が若干高くなっているところに小・中学校の違いが見られる。
- 「環境教育のための新しい教科」を作り、実践する方がよい」との回答は小・中学校ともに低い。

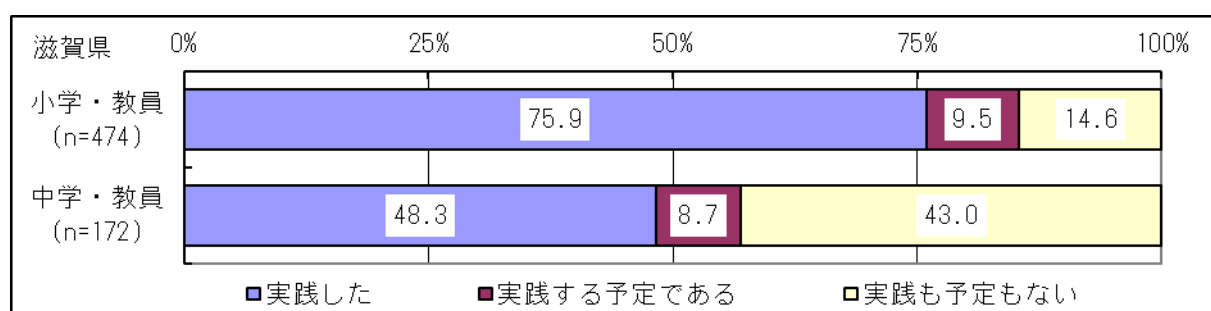
問 10. あなたは、個人的に、環境に関するNPO・NGOや市民団体等と関わりがありますか。



○小・中学校ともに会員やボランティアとして関わっている教員はほとんどおらず、「イベント等の活動に参加したことがある」教員が2割強という程度である。

○約7割の教員は環境団体等との個人的な関わりを有していない。

問 11. あなたは今年度（平成27年度）、環境教育に関係すると思われる学習指導を実践しましたか。または、予定はありますか。



○環境教育実践率は、小学校 75.9%、中学校 48.3%で、両者で大きな違いが見られ、有意差が認められた（2行3列）。環境教育は中学校より小学校で実践される傾向があると言える。

【担任学年、担当教科別の実践率】

〔小学校〕

学年	実践した	実践する予定である	実践も予定もない	有効数
1年	66.1	8.5	25.4	59
2年	69.9	8.2	21.9	73
3年	64.9	13.0	22.1	77
4年	88.0	4.0	8.0	75
5年	88.2	8.6	3.2	93
6年	73.2	13.4	13.4	82

※：有効数は人、その他の数値は%。色敷、ゴシック太字は実践率の高い学年。

○小学校の担任学年別の実践率は、第4学年（88.0%）、第5学年（88.2%）で高くなっている。このことは、教科の学習内容に加え、「やまのこ」「うみのこ」が関係していると考えられる。

〔中学校〕

教科	実践した	実践する予定である	実践も予定もない	有効数
国語	20.0	10.0	70.0	20
社会	36.8	10.5	52.6	19
数学	45.5	0.0	54.5	22
理科	66.7	15.6	17.8	45
音楽・美術	22.2	0.0	77.8	9
保健体育	38.9	11.1	50.0	18
技術・家庭	88.9	0.0	11.1	9
英語	46.4	7.1	46.4	28

※：有効数は人、その他の数値は％。色敷、ゴシック太字は実践率の高い教科。

○中学校の担当教科別の実践率は、「理科」（66.7％）、「技術・家庭」（88.9％）で高くなっている。

このことは教科の学習内容が関係していると考えられる。

○「理科」で「実践する予定である」がやや高いのは、生態系の学習が第3学年の3学期の学習になっているためと考えられる。

問 12. 問 11 で「1. 実践した」と回答された方だけにお尋ねします。今年度あなたが、比較的良好に取り組んだ環境教育の学習指導を、次の〔学習内容〕と〔体験活動〕の中から、それぞれ3つ以内で選んで下さい。

問 12-1. 〔学習内容〕（3つ以内）

	小学校		中学校	
	滋賀県 (356 人)	全国 (140 人)	滋賀県 (81 人)	全国 (58 人)
自然の仕組みや成り立ちの学習	26.4	15.7	13.6	13.8
生命の尊さや自然の大切さの学習	48.3	36.4	24.7	13.8
地域の動植物や地形などの学習	33.4	15.0	23.5	19.0
地域の文化や生活習慣などの学習	12.4	15.7	9.9	15.5
地球的規模の環境問題の学習	9.6	20.0	27.2	41.4
地域や国内の環境問題の学習	15.4	19.3	22.2	25.9
資源、エネルギーに関する学習	15.7	32.9	38.3	53.4
食や農に関する学習	32.9	27.1	13.6	17.2
環境に配慮した生活の仕方の学習	27.2	42.1	34.6	27.6
まちづくりに関する学習	3.4	5.7	7.4	1.7
その他	1.1	3.6	1.2	1.7

※：表中の数値は％。色敷、ゴシック太字は上位3項目。

○滋賀県では、環境教育を実践した教員の学習内容の上位3項目は、小学校では「生命の尊さや自然の大切さの学習」（48.3％）、「地域の動植物や地形などの学習」（33.4％）、「食や農に関する学習」（32.9％）である。中学校では「資源、エネルギーに関する学習」（38.3％）、「環境に配慮した生活の仕方の学習」（34.6％）、「地球的規模の環境問題の学習」（27.2％）である。

○学習内容の上位3項目は、小・中学校で違いが見られる。

○全国との比較では、中学校は順位や割合の違いは見られるものの、上位3項目は同じであるのに対し、小学校では全国との違いが見られる。

○滋賀県の小学校では、「地域の動植物や地形などの学習」、「食や農に関する学習」といった地域に目を向けた環境教育が実践される傾向があると考えられる。

問 12-2. 〔体験活動〕（3 つ以内）

	小学校		中学校	
	滋賀県 (347 人)	全国 (128 人)	滋賀県 (72 人)	全国 (47 人)
地域の自然に親しむ活動	55.0	33.6	23.6	27.7
地域の伝統文化に親しむ活動	12.4	13.3	8.3	17.0
動植物の飼育栽培活動	46.7	40.6	9.7	12.8
ゴミの分別やリサイクル活動	27.4	41.4	43.1	55.3
地域の美化・清掃活動	31.4	29.7	43.1	46.8
空気や水の汚れを調べる活動	18.2	15.6	15.3	4.3
動植物の保護活動	4.3	2.3	6.9	0.0
伝統文化の保存・伝承活動	8.1	8.6	6.9	4.3
省エネルギー活動	5.8	12.5	9.7	21.3
環境に関連する施設の見学	11.2	18.0	8.3	2.1
その他	1.7	1.6	1.4	8.5

※：表中の数値は％。色敷、ゴシック太字は上位 3 項目。

○滋賀県では、環境教育を実践した教員の体験活動の上位 3 項目は、小学校では「地域の自然に親しむ活動」（55.0％）、「動植物の飼育栽培活動」（46.7％）、「地域の美化・清掃活動」（31.4％）である。中学校では「ゴミの分別やリサイクル活動」（43.1％）、「地域の美化・清掃活動」（43.1％）、「地域の自然に親しむ活動」（23.6％）である。

○体験活動の上位 3 項目のうち 2 項目は小・中学校で共通性が見られる。小・中学校で異なっているのは、小学校で「動植物の飼育栽培活動」が高く、中学校で「ゴミの分別やリサイクル活動」が高いことである。

○全国との比較では、小学校では「地域の自然に親しむ活動」の割合が滋賀県で高く、「ゴミの分別やリサイクル活動」が上位 3 項目に入っていないという違いが見られるが、中学校では全国とほぼ同じである。

○滋賀県の小学校では環境教育に関わる体験活動として「地域の自然に親しむ活動」が実践される傾向があると考えられる。

【付記】

本報告書は、竹田和也の修士論文「滋賀県公立小・中学校における環境教育の傾向と課題」（2016年度）のデータを用いて市川が執筆したものである。

データの利用、及び報告書作成については、本人の了承を得ている。また、各調査協力校に対しては、学校長宛の協力依頼文書に「修士論文の他、研究報告等で公表」する旨を記している。

なお、本報告書においては、調査の結果公表を重視し、コメントは最小限にとどめている。

【調査票】

滋賀県環境教育調査（小学校）

質問事項にお答えになる前に必ずお読み下さい。

1. 本調査は、滋賀県内のすべての公立小・中学校を対象として、環境教育の現状を把握するために行うものです。
2. 本調査票の記入は、校長・副校長（教頭）・主任等の学校全体の状況について理解されている方にお願い致します。
3. 回答は、特に指示のある場合を除いて、選択肢の番号を○で囲んで下さい。「その他」を選択した場合は括弧内に簡潔にご記入下さい。
4. 本調査の結果は、自由記述以外は統計的に処理し、自由記述は分類・分析し、修士論文の他、研究報告等で公表致しますが、個々の調査票や学校名等がわかる形での公表は決して致しません。
5. 本調査のデータは、個人情報保護等に十分注意し、情報漏洩が起こらないよう細心の注意を払って取り扱います。
6. 本調査票は、教員調査票と一緒に返信用封筒にて、2016 年 1 月 31 日までにご返送頂ければ幸いです。

F 1. 貴校の属する市町をお教え下さい。括弧内に市町名をご記入下さい。

() 市・町

F 2. 今年度（平成 27 年度）の貴校の全校児童数をお教え下さい。括弧内に数字をご記入下さい。

児童数 () 人

問1. 貴校では、今年度の教育目標や重点目標などに、環境教育に関する内容が示されていますか。

1. はい 2. いいえ

問2. 貴校には、環境教育の学校全体計画はありますか。

1. ある 2. ない

問3. 貴校では、校務分掌に環境教育担当を位置づけていますか。

1. はい 2. いいえ

問4. 貴校では、昨年度または今年度に、環境教育に関する校内研修を実施しましたか（実施予定も含む）。

1. 実施していない 2. 実施した（実施予定も含む）

問5. 貴校では、現在の学校の方針として、環境教育をどのように位置付けておられますか。次の中から、貴校の考えに最も近いものを1つ選んで下さい。

1. 環境教育は最優先課題と位置付けている
2. 最優先ではないが、優先課題と位置付けている
3. 他の教育課題を優先しており、環境教育は優先課題と位置付けていない

問6. 貴校では、環境教育のために、各学年で年間どのくらいの時間をあてていますか。括弧内に数字をご記入下さい。

1年（ ）時間程度 2年（ ）時間程度 3年（ ）時間程度
4年（ ）時間程度 5年（ ）時間程度 6年（ ）時間程度

問7. 貴校には、環境教育と位置づけて行っている全校活動・行事はありますか。

1. ある
2. ない

（問7で「1. ある」を選んだ方だけお答え下さい） その活動・行事の内容を簡単にご記入下さい。

--

問8. 貴校には、児童会に環境委員会などの環境に関する組織はありますか。

1. ある
2. ない

（問8で「1. ある」を選んだ方だけお答え下さい） その委員会の名称と活動内容を簡単にご記入下さい。

委員会名	
活動内容	

問 9. 貴校の「総合的な学習の時間」として、特に重視しているテーマを、次の中から該当するものを 3つ以内 で選んで下さい。

- | | | | |
|---------|-----------|---------------------------------|-------|
| 1. 国際理解 | 2. 情報 | 3. 環境 | 4. 福祉 |
| 5. 健康 | 6. 地域（郷土） | 7. 伝統文化 | 8. 人権 |
| 9. 生き方 | 10. 進路 | 11. その他（ ） | |

問 10. 貴校では、「やまのこ」、「うみのこ」の事前指導・事後指導として、どのような実践を行っていますか。行っている実践の内容を簡単にご記入ください。特に行っていない場合は、「特になし」とご記入下さい。

〔やまのこ〕

事前 指導	
事後 指導	

〔うみのこ〕

事前 指導	
事後 指導	

問 11. 貴校では、「びわ湖の日（7月1日）」の取り組みにおいて、環境教育に関わる活動を行っていますか。

- | | |
|----------|-----------|
| 1. 行っている | 2. 行っていない |
|----------|-----------|

（問 11 で「1. 行っている」を選んだ方だけお答え下さい） その実践・活動の内容を簡単にご記入下さい。

--

問 12. 今年度（平成 27 年度）、「総合的な学習の時間」・「特別活動」での環境に関する学習として貴校が実践された学習内容・テーマについて、以下の中から、該当するものをいくつでも選んで下さい（実践予定を含む。実践学年にはこだわりません）。

〔地球環境問題に関わる学習〕

- | | |
|--------------|-------------------|
| 1. 酸性雨 | 2. 砂漠化・黄砂 |
| 3. PM 2.5 | 4. 地球温暖化、二酸化炭素の排出 |
| 5. 森林破壊や緑の減少 | 6. 海洋汚染 |
| 7. オゾン層（の破壊） | 8. 絶滅危惧種 |

〔国内の環境・環境問題に関わる学習〕

- | | |
|-----------|-----------------|
| 9. 公害（鉱害） | 10. 水質汚濁 |
| 11. 大気汚染 | 12. ゴミ問題 |
| 13. 獣害 | 14. 災害・防災 |
| 15. 生物多様性 | 16. 地域の開発・まちづくり |

〔水環境・琵琶湖に関わる学習〕

- | | |
|-------------------|------------------|
| 17. 琵琶湖の富栄養化・水の汚れ | 18. 琵琶湖の生き物・固有種 |
| 19. 外来種 | 20. ラムサール条約 |
| 21. 生活排水 | 22. 環境に関する滋賀県の条例 |

〔資源・エネルギーに関わる学習〕

- | | |
|----------------|----------------------|
| 23. 再生可能エネルギー | 24. 原子力発電 |
| 25. 放射能・放射線 | 26. リデュース、リユース、リサイクル |
| 27. 省資源、省エネルギー | 28. 廃棄物の減量・分別 |
| 29. 環境に配慮した生活 | 30. 地産地消、食育 |
| 31. 生態系から受ける恩恵 | |

〔体験的な活動〕

- | | |
|-------------------|---------------------|
| 32. 飼育・栽培活動 | 33. 地域の自然の調査・観察 |
| 34. 地域の水質や大気の調査 | 35. 校庭、森などでの自然体験活動 |
| 36. 湖、川などでの自然体験活動 | 37. エコキャップ活動 |
| 38. 地域の美化・清掃活動 | 39. 古紙・空き缶などの資源回収活動 |
| 40. 緑のカーテン | 41. 緑化活動 |
| 42. 環境に関する施設の見学 | |
| 43. その他（ | ） |

ご協力どうもありがとうございました。

滋賀県環境教育調査（中学校）

質問事項にお答えになる前に必ずお読み下さい。

1. 本調査は、滋賀県内のすべての公立小・中学校を対象として、環境教育の現状を把握するために行うものです。
2. 本調査票の記入は、校長・副校長（教頭）・主任等の学校全体の状況について理解されている方にお願い致します。
3. 回答は、特に指示のある場合を除いて、選択肢の番号を○で囲んで下さい。「その他」を選択した場合は括弧内に簡潔にご記入下さい。
4. 本調査の結果は、自由記述以外は統計的に処理し、自由記述は分類・分析し、修士論文の他、研究報告等で公表致しますが、個々の調査票や学校名等がわかる形での公表は決して致しません。
5. 本調査のデータは、個人情報保護等に十分注意し、情報漏洩が起こらないよう細心の注意を払って取り扱います。
6. 本調査票は、教員調査票と一緒に返信用封筒にて、2016 年 1 月 31 日までにご返送頂ければ幸いです。

F 1. 貴校の属する市町をお教え下さい。括弧内に市町名をご記入下さい。

（ ）市・町

F 2. 今年度（平成 27 年度）の貴校の全校生徒数をお教え下さい。括弧内に数字をご記入下さい。

生徒数 （ ）人

問 1. 貴校では、今年度の教育目標や重点目標などに、環境教育に関する内容が示されていますか。

1. はい 2. いいえ

問 2. 貴校には、環境教育の学校全体計画がありますか。

1. ある 2. ない

問 3. 貴校では、校務分掌に環境教育担当を位置づけていますか。

1. はい 2. いいえ

問 4. 貴校では、昨年度または今年度に、環境教育に関する校内研修を実施しましたか（実施予定も含む）。

1. 実施していない 2. 実施した（実施予定も含む）

問5. 貴校では、現在の学校の方針として、環境教育をどのように位置付けておられますか。次の中から、貴校の考えに最も近いものを1つ選んで下さい。

1. 環境教育は最優先課題と位置付けている
2. 最優先ではないが、優先課題と位置付けている
3. 他の教育課題を優先しており、環境教育は優先課題と位置付けていない

問6. 貴校では、環境教育のために、各学年で年間どのくらいの時間をあてていますか。括弧内に数字をご記入下さい。

1年（ ）時間程度 2年（ ）時間程度 3年（ ）時間程度

問7. 貴校には、環境教育と位置づけて行っている全校活動・行事はありますか。

1. ある
2. ない

（問7で「1. ある」を選んだ方だけお答え下さい） その活動・行事の内容を簡単にご記入下さい。

--

問8. 貴校には、生徒会に環境委員会などの環境に関する組織はありますか。

1. ある
2. ない

（問8で「1. ある」を選んだ方だけお答え下さい） その委員会の名称と活動内容を簡単にご記入下さい。

委員会名	
活動内容	

問 9. 貴校の「総合的な学習の時間」として、特に重視しているテーマを、次の中から該当するものを 3つ以内 で選んで下さい。

- | | | | |
|---------|-----------|----------|-------|
| 1. 国際理解 | 2. 情報 | 3. 環境 | 4. 福祉 |
| 5. 健康 | 6. 地域（郷土） | 7. 伝統文化 | 8. 人権 |
| 9. 生き方 | 10. 進路 | 11. その他（ | ） |

問 10. 貴校では、小学校で行われている「やまのこ」、「うみのこ」に関連づけた環境教育の実践を行っていますか。行っている実践の内容を簡単にご記入ください。特に行っていない場合は、「特になし」とご記入下さい。

〔やまのこ〕

--

〔うみのこ〕

--

問 11. 貴校では、「びわ湖の日（7月1日）」の取り組みにおいて、環境教育に関わる活動を行っていますか。

- | | |
|----------|-----------|
| 1. 行っている | 2. 行っていない |
|----------|-----------|

（問 11 で「1. 行っている」を選んだ方だけお答え下さい） その実践・活動の内容を簡単にご記入下さい。

--

問 12. 今年度（平成 27 年度）、「総合的な学習の時間」・「特別活動」での環境に関する学習として貴校が実践された学習内容・テーマについて、以下の中から、該当するものをいくつでも選んで下さい（実践予定を含む。実践学年にはこだわりません）。

〔地球環境問題に関わる学習〕

- | | |
|--------------|-------------------|
| 1. 酸性雨 | 2. 砂漠化・黄砂 |
| 3. PM 2.5 | 4. 地球温暖化、二酸化炭素の排出 |
| 5. 森林破壊や緑の減少 | 6. 海洋汚染 |
| 7. オゾン層（の破壊） | 8. 絶滅危惧種 |

〔国内の環境・環境問題に関わる学習〕

- | | |
|-----------|-----------------|
| 9. 公害（鉱害） | 10. 水質汚濁 |
| 11. 大気汚染 | 12. ゴミ問題 |
| 13. 獣害 | 14. 災害・防災 |
| 15. 生物多様性 | 16. 地域の開発・まちづくり |

〔水環境・琵琶湖に関わる学習〕

- | | |
|-------------------|------------------|
| 17. 琵琶湖の富栄養化・水の汚れ | 18. 琵琶湖の生き物・固有種 |
| 19. 外来種 | 20. ラムサール条約 |
| 21. 生活排水 | 22. 環境に関する滋賀県の条例 |

〔資源・エネルギーに関わる学習〕

- | | |
|----------------|----------------------|
| 23. 再生可能エネルギー | 24. 原子力発電 |
| 25. 放射能・放射線 | 26. リデュース、リユース、リサイクル |
| 27. 省資源、省エネルギー | 28. 廃棄物の減量・分別 |
| 29. 環境に配慮した生活 | 30. 地産地消、食育 |
| 31. 生態系から受ける恩恵 | |

〔体験的な活動〕

- | | |
|-------------------|---------------------|
| 32. 飼育・栽培活動 | 33. 地域の自然の調査・観察 |
| 34. 地域の水質や大気の調査 | 35. 校庭、森などでの自然体験活動 |
| 36. 湖、川などでの自然体験活動 | 37. エコキャップ活動 |
| 38. 地域の美化・清掃活動 | 39. 古紙・空き缶などの資源回収活動 |
| 40. 緑のカーテン | 41. 緑化活動 |
| 42. 環境に関する施設の見学 | |
| 43. その他（ | ） |

ご協力どうもありがとうございました。

滋賀県環境教育調査（小学校教員）

質問事項にお答えになる前に必ずお読み下さい。

1. 本調査は、滋賀県内のすべての公立小・中学校を対象として、環境教育の現状を把握するために行うものです。
2. 本調査票の記入は、学級担任をしておられる先生のうち4～6人の方にお願い致します。
3. 回答は、特に指示のある場合を除いて、選択肢の番号を○で囲んで下さい。「その他」を選択した場合は括弧内に簡潔にご記入下さい。
4. 本調査の結果は、自由記述以外は統計的に処理し、自由記述は分類・分析し、修士論文の他、研究報告等で公表致しますが、個々の調査票や学校名等がわかる形での公表は決して致しません。
5. 本調査のデータは、個人情報保護等に十分注意し、情報漏洩が起こらないよう細心の注意を払って取り扱います。
6. 本調査票は、学校調査票と一緒に返信用封筒にて、2016年1月31日までにご返送頂ければ幸いです。

F 1. あなたの年齢（調査時点）をお教え下さい。次の中から、該当するものを 1つ 選んで下さい。

1. 20～29 歳 2. 30～39 歳 3. 40～49 歳 4. 50 歳以上

F 2. あなたの性別をお教え下さい。次の中から、該当するものを 1つ 選んで下さい。

1. 男性 2. 女性

F 3. あなたが、今年度（平成 27 年度）担任を受け持っておられる学年をお教え下さい。括弧内に数字でご記入下さい。

第（ ）学年

問 1. あなたは、環境教育に関心がありますか。次の中から、該当するものを 1つ 選んで下さい。

1. おおいに関心がある 2. やや関心がある
3. あまり関心がない 4. 関心はない

問 2. 「学校における環境教育」と言われた時、その指導内容や取り扱う題材として思い浮かべること
はどのようなことですか。まず思い浮かぶことがらについて、例えば、「水の汚れの学習」、「自然体
験活動」のように、3つ以内でご記入下さい。

①	
②	
③	

問 3. あなたは、滋賀県が「環境教育先進県」であると思いますか。次の中から、あなたの考えに最
も近いものを1つ選んで下さい。

- | | |
|-------------------|-----------------|
| 1. そう思う | 2. どちらかと言えばそう思う |
| 3. どちらかと言えばそう思わない | 4. そう思わない |

問 4. あなたは、今年度（平成 27 年度）「あおいびわ湖」（副読本）を授業で使用しましたか。また
は、使用する予定がありますか。次の中から、該当するものを1つ選んで下さい。

- | | |
|---------------------|---------------------|
| 1. 使用した | 2. 使用する予定である |
| 3. 使用していないし、予定もない | 4. 「あおいびわ湖」を見たことがない |
| 5. 「あおいびわ湖」の存在を知らない | |

問 5. あなたは、現在の教育課題として、環境教育の優先度はどの程度だと捉えていますか。次の中
から、あなたの考えに最も近いものを1つ選んで下さい。

- | | |
|-------------------|-------------------|
| 1. 優先度は高い | 2. どちらかと言えば優先度は高い |
| 3. どちらかと言えば優先度は低い | 4. 優先度は低い |

問 6. あなたは、自分の担任学級の児童の環境に関する行動について、どのように捉えていますか。
次の中から、あなたの考えに最も近いものを1つ選んで下さい。

- | | |
|-------------------|---------------------|
| 1. 自ら進んで行っている | 2. 他の人に言われたときは行っている |
| 3. 係などの担当の時は行っている | 4. ほとんど行っていない |

問 7. あなたは、現在の学校教育における環境教育の実践の現状について、どのように捉えています
か。次の中から、あなたの考えに最も近いものを1つ選んで下さい。

- | | |
|-------------------|------------------|
| 1. 実践は十分である | 2. どちらかと言えば十分である |
| 3. どちらかと言えば不十分である | 4. 実践は不十分である |

問 8. あなたは、環境教育の実践における問題・課題についてどのようにお考えですか。次の中から、主要な問題・課題だと思うものを2つ以内で選んで下さい。

1. 教材・プログラムの不足
2. 指導方法に関する資料・情報の不足
3. 実践事例に関する資料・情報の不足
4. 評価方法に関する資料・情報の不足
5. 環境問題に関する資料・情報の不足
6. 準備・実践時間の不足
7. その他 ()

問 9. あなたは、今後の環境教育の進め方についてどのようにお考えですか。次の中から、あなたの考えに最も近いものを1つ選んで下さい。

1. 「教科・道徳」で実践する方がよい
2. 「総合的な学習の時間」で実践する方がよい
3. 「全校活動・特別活動」で実践する方がよい
4. 「学校教育以外の教育・学習の場」で実践する方がよい
5. 「環境教育のための新しい教科」を作り、実践する方がよい

問 10. あなたは、個人的に、環境に関するNPO・NGOや市民団体等と関わりがありますか。次の中から、該当するものを1つ選んで下さい。

1. 会員として関わっている
2. 会員ではないが、ボランティア等で協力している
3. イベント等の活動に参加したことがある
4. 全く関わりはない

問 11. あなたは今年度（平成 27 年度）、環境教育に関係すると思われる学習指導を実践しましたか。または、予定はありますか。該当するものを1つ選んで下さい。

1. 実践した
2. 実践する予定である
3. 実践していないし、予定もない

問 12. 問 11 で「1. 実践した」と回答された方だけにお尋ねします。今年度あなたが、比較的よく取り組んだ環境教育の学習指導を、次の〔学習内容〕と〔体験活動〕の中から、それぞれ3つ以内で選んで下さい。また、比較的よく環境教育を実践した教科等、単元（教科書教材）をお教え下さい。

滋賀県環境教育調査（中学校教員）

質問事項にお答えになる前に必ずお読み下さい。

1. 本調査は、滋賀県内のすべての公立小・中学校を対象として、環境教育の現状を把握するために行うものです。
2. 本調査票の記入は、学級担任をしておられる先生のうち4～6人の方にお願い致します。
3. 回答は、特に指示のある場合を除いて、選択肢の番号を○で囲んで下さい。「その他」を選択した場合は括弧内に簡潔にご記入下さい。
4. 本調査の結果は、自由記述以外は統計的に処理し、自由記述は分類・分析し、修士論文の他、研究報告等で公表致しますが、個々の調査票や学校名等がわかる形での公表は決して致しません。
5. 本調査のデータは、個人情報保護等に十分注意し、情報漏洩が起こらないよう細心の注意を払って取り扱います。
6. 本調査票は、学校調査票と一緒に返信用封筒にて、2016年1月31日までにご返送頂ければ幸いです。

F 1. あなたの年齢（調査時点）をお教え下さい。次の中から、該当するものを1つ選んで下さい。

1. 20～29 歳 2. 30～39 歳 3. 40～49 歳 4. 50 歳以上

F 2. あなたの性別をお教え下さい。次の中から、該当するものを1つ選んで下さい。

1. 男性 2. 女性

F 3. あなたが、今年度（平成 27 年度）担任を受け持っておられる学年をお教え下さい。括弧内に数字でご記入下さい。

第（ ）学年

F 4. あなたの担当教科をお教え下さい。次の中から、該当するものを1つ選んで下さい。「その他」を選ばれた方は括弧内に簡潔にご記入下さい。

- | | | | |
|-------|--------|-------------------------|-------|
| 1. 国語 | 2. 社会 | 3. 数学 | 4. 理科 |
| 5. 音楽 | 6. 美術 | 7. 保健体育 | 8. 技術 |
| 9. 家庭 | 10. 英語 | 11. その他（ ） | |

問 1. あなたは、環境教育に関心がありますか。次の中から、該当するものを1つ選んで下さい。

- | | |
|--------------|------------|
| 1. おおいに関心がある | 2. やや関心がある |
| 3. あまり関心がない | 4. 関心はない |

問 2. 「学校における環境教育」と言われた時、その指導内容や取り扱う題材として思い浮かべることはどのようなことですか。まず思い浮かぶことがらについて、例えば、「水の汚れの学習」、「自然体験活動」のように、3つ以内でご記入下さい。

①	
②	
③	

問 3. あなたは、滋賀県が「環境教育先進県」であると思いますか。次の中から、あなたの考えに最も近いものを1つ選んで下さい。

- | | |
|-------------------|-----------------|
| 1. そう思う | 2. どちらかと言えばそう思う |
| 3. どちらかと言えばそう思わない | 4. そう思わない |

問 4. あなたは、今年度（平成 27 年度）「あおい琵琶湖」（副読本）を授業で使用しましたか。または、使用する予定がありますか。次の中から、該当するものを1つ選んで下さい。

- | | |
|---------------------|---------------------|
| 1. 使用した | 2. 使用する予定である |
| 3. 使用していないし、予定もない | 4. 「あおい琵琶湖」を見たことがない |
| 5. 「あおい琵琶湖」の存在を知らない | |

問 5. あなたは、現在の教育課題として、環境教育の優先度はどの程度だと捉えていますか。次の中から、あなたの考えに最も近いものを1つ選んで下さい。

- | | |
|-------------------|-------------------|
| 1. 優先度は高い | 2. どちらかと言えば優先度は高い |
| 3. どちらかと言えば優先度は低い | 4. 優先度は低い |

問 6. あなたは、自分の担任学級の生徒の環境に関する行動について、どのように捉えていますか。次の中から、あなたの考えに最も近いものを1つ選んで下さい。

- | | |
|-------------------|---------------------|
| 1. 自ら進んで行っている | 2. 他の人に言われたときは行っている |
| 3. 係などの担当の時は行っている | 4. ほとんど行っていない |

問 7. あなたは、現在の学校教育における環境教育の実践の現状について、どのように捉えていますか。次の中から、あなたの考えに最も近いものを1つ選んで下さい。

- | | |
|-------------------|------------------|
| 1. 実践は十分である | 2. どちらかと言えば十分である |
| 3. どちらかと言えば不十分である | 4. 実践は不十分である |

問 8. あなたは、環境教育の実践における問題・課題についてどのようにお考えですか。次の中から、主要な問題・課題だと思うものを2つ以内で選んで下さい。

1. 教材・プログラムの不足
2. 指導方法に関する資料・情報の不足
3. 実践事例に関する資料・情報の不足
4. 評価方法に関する資料・情報の不足
5. 環境問題に関する資料・情報の不足
6. 準備・実践時間の不足
7. その他 ()

問 9. あなたは、今後の環境教育の進め方についてどのようにお考えですか。次の中から、あなたの考えに最も近いものを1つ選んで下さい。

1. 「教科・道徳」で実践する方がよい
2. 「総合的な学習の時間」で実践する方がよい
3. 「全校活動・特別活動」で実践する方がよい
4. 「学校教育以外の教育・学習の場」で実践する方がよい
5. 「環境教育のための新しい教科」を作り、実践する方がよい

問 10. あなたは、個人的に、環境に関するNPO・NGOや市民団体等と関わりがありますか。次の中から、該当するものを1つ選んで下さい。

1. 会員として関わっている
2. 会員ではないが、ボランティア等で協力している
3. イベント等の活動に参加したことがある
4. 全く関わりはない

問 11. あなたは今年度（平成 27 年度）、環境教育に関係すると思われる学習指導を実践しましたか。または、予定はありますか。該当するものを1つ選んで下さい。

1. 実践した
2. 実践する予定である
3. 実践していないし、予定もない

問 12. 問 11 で「1. 実践した」と回答された方だけにお尋ねします。今年度あなたが、比較的よく取り組んだ環境教育の学習指導を、次の〔学習内容〕と〔体験活動〕の中から、それぞれ3つ以内で選んで下さい。また、比較的よく環境教育を実践した教科等、単元（教科書教材）をお教え下さい。

問 12-1. 〔学習内容〕（3つ以内）

- | | |
|--------------------|--------------------|
| 1. 自然の仕組みや成り立ちの学習 | 2. 生命の尊さや自然の大切さの学習 |
| 3. 地域の動植物や地形などの学習 | 4. 地域の文化や生活習慣などの学習 |
| 5. 地球的規模の環境問題の学習 | 6. 地域や国内の環境問題の学習 |
| 7. 資源、エネルギーに関する学習 | 8. 食や農に関する学習 |
| 9. 環境に配慮した生活の仕方の学習 | 10. まちづくりに関する学習 |
| 11. その他（ | ） |

問 12-2. 〔体験活動〕（3つ以内）

- | | |
|----------------|------------------|
| 1. 地域の自然に親しむ活動 | 2. 地域の伝統文化に親しむ活動 |
| 3. 動植物の飼育栽培活動 | 4. ゴミの分別やリサイクル活動 |
| 5. 地域の美化・清掃活動 | 6. 空気や水の汚れを調べる活動 |
| 7. 動植物の保護活動 | 8. 伝統文化の保存・伝承活動 |
| 9. 省エネルギー活動 | 10. 環境に関連する施設の見学 |
| 11. その他（ | ） |

問 12-3. 比較的によく環境教育を実践した教科等、単元（教科書教材）をご記入下さい。

教科等	単元（教科書教材）

ご協力ありがとうございました。

【集計表】
〔学校調査〕

問１．貴校では、今年度の教育目標や重点目標などに、環境教育に関する内容が示されていますか。

	目標		有効数
	はい	いいえ	
小学校	67	32	99
中学校	24	19	43

問２．貴校には、環境教育の学校全体計画はありますか。

	全体計画		有効数
	はい	いいえ	
小学校	100	0	100
中学校	42	1	43

問３．貴校では、校務分掌に環境教育担当を位置づけていますか。

	担当	有効数
	はい	
小学校	100	100
中学校	43	43

問４．貴校では、昨年度または今年度に、環境教育に関する校内研修を実施しましたか（実施予定も含む）。

	校内研修		有効数
	はい	いいえ	
小学校	65	35	100
中学校	37	5	42

問５．貴校では、現在の学校の方針として、環境教育をどのように位置付けておられますか。

	位置づけ			有効数
	最優先	優先	非優先	
小学校	3	65	31	99
中学校	0	25	16	41

問７．貴校には、環境教育と位置づけて行っている全校活動・行事はありますか。

	全校活動		有効数
	ある	ない	
小学校	81	15	96
中学校	36	7	43

問８．貴校には、児童会〔生徒会〕に環境委員会などの環境に関する組織はありますか。

	児童会（生徒会）		有効数
	ある	ない	
小学校	89	10	99
中学校	33	8	41

問 9. 貴校の「総合的な学習の時間」として、特に重視しているテーマを、次の中から該当するものを 3 つ以内で選んで下さい。

	国際理解	情報	環境	福祉	健康	地域
小学校	9	4	66	60	1	68
中学校	5	2	10	18	0	21
	伝統文化	人権	生き方	進路	その他	有効数
小学校	11	27	15	1	2	95
中学校	3	17	6	26	2	40

問 11. 貴校では、「びわ湖の日（7月1日）」の取り組みにおいて、環境教育に関わる活動を行っていますか。

	びわ湖の日		有効数
	行っている	いない	
小学校	88	12	100
中学校	35	7	42

問 12. 今年度（平成 27 年度）、「総合的な学習の時間」・「特別活動」での環境に関する学習として貴校が実践された学習内容・テーマについて、以下の中から、該当するものをいくつでも選んで下さい（実践予定を含む。実践学年にはこだわりません）。

	1. 酸性雨	2. 砂漠化	3. PM2.5	4. 地球温暖化	5. 森林破壊	6. 海洋汚染
小学校	26	11	6	50	51	4
中学校	1	0	0	6	2	0
	7. オゾン層	8. 絶滅危惧種	9. 公害	10. 水質汚濁	11. 大気汚染	12. ゴミ問題
小学校	9	22	18	55	15	67
中学校	1	0	2	5	0	13
	13. 獣害	14. 災害・防災	15. 生物多様性	16. まちづくり	17. 琵琶湖の富栄養化	18. 琵琶湖の生物
小学校	7	39	12	22	79	85
中学校	1	7	2	7	8	9
	19. 外来種	20. ラムサール条約	21. 生活排水	22. 滋賀県条例	23. 再生可能エネ	24. 原子力発電
小学校	61	20	52	19	17	8
中学校	4	1	5	4	5	2
	25. 放射能	26. 3R	27. 省資源・省エネ	28. 廃棄物の減量	29. エコライフ	30. 地産地消
小学校	9	61	25	36	44	54
中学校	3	9	5	4	8	7
	31. 生態系の恩恵	32. 飼育・栽培	33. 地域の自然調査	34. 地域の水大気調査	35. 森・自然体験	36. 川・自然体験
小学校	22	90	64	32	67	69
中学校	1	6	8	3	4	9

	37. エコキャ ップ	38. 美化・清 掃	39. 資源回収	40. 緑のカー テン	41. 緑化	42. 施設見学
小学校	49	67	45	32	15	54
中学校	26	24	24	2	1	5
	43. その他	有効数				
小学校	2	100				
中学校	0	43				

〔教員調査〕

問 1. あなたは、環境教育に関心がありますか。

	関心度				有効数
	おおいにある	ややある	あまりない	ない	
小学校	68	351	47	2	468
中学校	27	104	39	5	175

問 3. あなたは、滋賀県が「環境教育先進県」であると思いますか。

	先進県認識				有効数
	そう思う	どちらかといえば そう思う	どちらかといえば そう思わない	そう思わない	
小学校	103	314	56	4	477
中学校	21	108	39	8	176

問 4. あなたは、今年度（平成 27 年度）「あおいびわ湖」（副読本）を授業で使いましたか。または、使用する予定がありますか。

	副読本					有効数
	使用した	使用予定	使用も予定も ない	見たことがな い	知らない	
小学校	83	52	284	35	23	477
中学校	11	14	96	20	35	176

問 5. あなたは、現在の教育課題として、環境教育の優先度はどの程度だと捉えていますか。

	優先度				有効数
	高い	どちらかといえば 高い	どちらかといえば 低い	低い	
小学校	60	267	148	5	480
中学校	11	76	76	12	175

問 6. あなたは、自分の担任学級の児童〔生徒〕の環境に関する行動について、どのように捉えていますか。

	児童（生徒）の行動				有効数
	自ら進んで	他人に言われた時	係などの担当の時	ほとんど行ってい ない	
小学校	91	231	130	25	477
中学校	20	62	68	22	172

問 7. あなたは、現在の学校教育における環境教育の実践の現状について、どのように捉えていますか。

	現状認識				有効数
	十分	どちらかといえば十分	どちらかといえば不十分	不十分	
小学校	23	233	205	16	477
中学校	3	57	95	20	175

問 8. あなたは、環境教育の実践における問題・課題についてどのようにお考えですか。次の中から、主要な問題・課題だと思うものを2つ以内で選んで下さい。

	1. 教材・プログラム	2. 指導方法	3. 実践事例	4. 評価方法
小学校	168	166	79	40
中学校	62	69	35	18
	5. 環境問題資料	6. 準備・実践時間	7. その他	有効数
小学校	72	258	17	470
中学校	33	84	6	174

問 9. あなたは、今後の環境教育の進め方についてどのようにお考えですか。

	進め方					有効数
	教科・道徳	総合	全校・特活	学校外	新教科	
小学校	44	337	68	14	7	470
中学校	34	88	32	15	3	172

問 10. あなたは、個人的に、環境に関するNPO・NGOや市民団体等と関わりがありますか。

	団体との関わり				有効数
	会員として	ボランティア等	イベント参加	関わりなし	
小学校	5	16	116	343	480
中学校	0	9	37	130	176

問 11. あなたは今年度（平成 27 年度）、環境教育に関係すると思われる学習指導を実践しましたか。または、予定はありますか。

	実践の有無			有効数
	実践した	実践する予定	実践も予定もない	
小学校	360	45	69	474
中学校	83	15	74	172

問 12. 問 11 で「1. 実践した」と回答された方だけにお尋ねします。今年度あなたが、比較的良好に取り組んだ環境教育の学習指導を、次の〔学習内容〕と〔体験活動〕の中から、それぞれ3つ以内で選んで下さい。

問 12-1. 〔学習内容〕（3つ以内）

	1. 自然の仕組み	2. 生命の尊さ	3. 地域の動植物	4. 地域の文化	5. 地球環境問題	6. 国内環境問題
小学校	94	172	119	44	34	55
中学校	11	20	19	8	22	18
	7. 資源・エネルギー	8. 食や農	9. エコライフ	10. まちづくり	11. その他	有効数
小学校	56	117	97	12	4	356
中学校	31	11	28	6	1	81

問 12-2. 〔体験活動〕（3 つ以内）

	1. 自然に親しむ	2. 伝統文化に親しむ	3. 飼育・栽培	4. ゴミ・リサイクル	5. 美化・清掃	6. 空気や水の汚れ
小学校	191	43	162	95	109	63
中学校	17	6	7	31	31	11
	7. 動植物保護	8. 伝統文化保存・伝承	9. 省エネルギー	10. 施設見学	11. その他	有効数
小学校	15	28	20	39	6	347
中学校	5	5	7	6	1	72

滋賀県小・中学校環境教育調査報告書（2016 年度）

発行日 2017 年 3 月 3 日

著 者 市川智史、竹田和也

発 行 滋賀大学環境総合研究センター
環境教育研究部門・市川研究室
〒520-0862 大津市平津 2-5-1